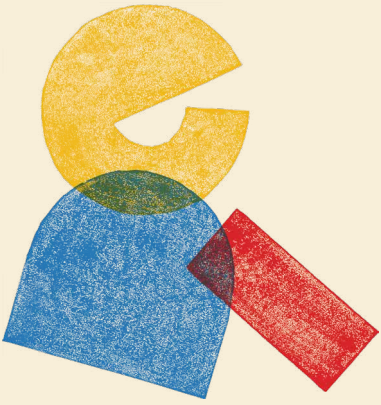




IncluDE

UTokyo

多様性包摂共創センター



IncluDEって何？

IncluDE（インクルード）は、2024 年に東京大学に新しくできたセンターです。

いろいろな人が「こんなことで困っているよ」と教えてくれたことを出発点にして、いろいろな役に立つサービスや道具をつくったり、研究をしたりします。そして、すべての人が同じように大切にされる場所を、みんなで作っていきます。

IncluDE は、ふたつのグループが一緒になってできました。1つは障害のある学生や研究者の手助けをする「バリアフリー支援室」、もう1つは女性の学生や研究者がしやすい大学になるように応援をする「男女共同参画室」です。新しいセンターになってからは、障害のある人たちや女の人たちだけではなく、さまざまなことで困っている人たちや、数が少ないという理由でいやな思いをしている人たちや、けんきゅう だいがく せんせい くれ いっしょ よ しゃかい 研究する大学の先生たちも加わり、一緒により良い社会をつくっていかうとしています。

あ ことば
合い言葉は

Nothing about us
without us!

（わたしたちのことを、わたしたちぬきで決めないで！）

IncluDEはこの気持ちを大切に、いろいろな活動をしていきます。

「D」「E」「I」とは？

IncluDE は D と E と I が大文字になっていて、ロゴも DEI の3文字が組み合わさってできています。「D」と「E」と「I」の3つをくっつけて「DEI」と言うことがあります。これは、いろいろな人が、公平に、そして、尊敬しあいながら協力することです。では、「D」「E」「I」とはなんでしょうか？

「D」は「多様性」を意味します。
いろいろな人がいるということです。

障害のある人もいれば、ない人もいます。
男性も女性も、それ以外の性別の人もあります。
生まれた国も違うし、使うことばも、違うかもしれま
せん。多様性は、英語でダイバーシティ (Diversity)
というのですが、その最初の文字です。

「E」は「公平性」を意味します。
いろいろなひとが、対等に生きていける
ということです。公平性は、英語でエクイティ (Equity)
というのですが、その最初の文字です。

「I」は「包摂性」を意味します。
いろいろなひとが、仲間はづれにされず、
尊敬しあいながら協力しあえること、そしてみんな
が「ここにいてもいいんだ」と感じられることです。
英語では、インクルージョン (Inclusion) という
のですが、その最初の文字です。



UTokyo Center for Corproduction
of Inclusion, Diversity and Equity

ウェブサイトの案内

01 IncluDEのWEBサイト（日本語） →

02 IncluDEのWEBサイト（英語） →

03 東京大学 ダイバーシティ & インクルージョン宣言 →

とうきょうだいがく だれ と のこ たよう
東京大学では、誰ひとり取り残さず、多様なみんなが
びょうどう あんぜん あんしん ば いっしょ つく あ
「平等に安全・安心な場」を一緒に作り上げていきます

04 東京大学における性的指向と
性自認の多様性に関する
学生のための行動ガイドライン

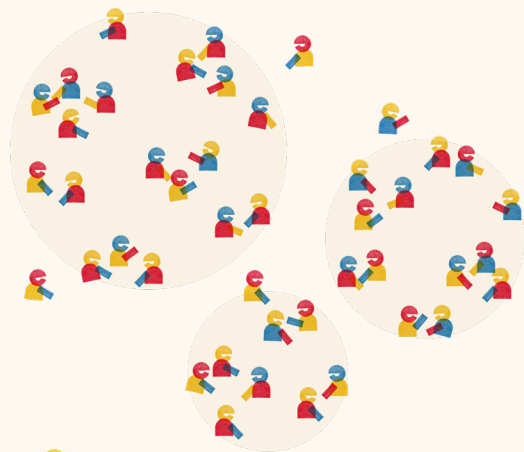
とうきょうだいがく せい たようせい そんちよう あんしん
東京大学では、性の多様性を尊重しあいながら安心して
だいがくせいかつ おく かんきょう すす
大学生を送るための環境づくりを進めています

IncluDEの3つのチーム

IncluDEで 目指していること

1

DEI 研究部門



DEI 研究部門には、「男の人はあるべき」「女の人はあるべき」と私たちが思い込んでしまっている捉え方（ジェンダー）や男性と女性だけでなくそれ以外の性別や、好きになる性など性の在り方全般（セクシュアリティ）について研究している人、障害について研究している人がたくさん集まっています。研究者同士が、おたがいの研究の成果を伝え合いながら、「実際に必要としている人」「使う人」の立場から考える、新しい社会のしくみ（=DEI 社会デザイン）についての研究を進めていきます。

2

DEI 共創推進戦略室



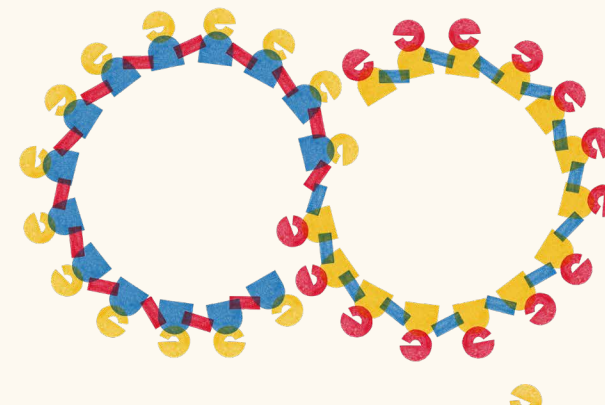
DEI 共創推進戦略室は、IncluDE（インクルード）のまんなかで大切なはたらきをするところです。「研究をするチーム」と「実際に動く（実践）するチーム」のあいだをつなぎます。会社や役所、大学などと力を合わせたり、ビジネスを始めることを応援したりして、研究の成果を社会に広げて実際に使えるようにしていきます。

具体的には、DEI についての新しいアイデアを出し合ったり、誰も仲間外れにならない環境づくりのためのプログラム（教育・研修）をつくったりして、いろいろな人に知ってもらうための活動をしています。

数が少ないことで嫌な思いをしている人や、障害がある人たちが過ごしやすいようになるためには、実際にどのようなことで困っているのかを知る必要があります。DEI 共創推進戦略室では、障害のある人たちなど（当事者評議会）からのアドバイスや意見をもらいながら活動しています。

3

DEI 実践部門



この2つのオフィスは、今までやってきたサポートの仕事、そのまま続けていきます。そして、IncluDE（インクルード）の一部門としてひとつになり、一緒に動くことで、いくつもの困りごとが重なっている人（たとえば、女性で、障害があって、性的マイノリティの人など）にも対応できるサポートを行っていきます。

また、研究部門でわかったことを取り入れて、今よりもっと良いサービスを大学の中で行います。さらに、サポートの現場で見つけた「新しいニーズ（必要なこと）」や「気づき」を研究部門に伝えることで、知=研究と実践=サポートのよい流れをつくります。

01

「こんなことで困っているよ」と教えてくれる人たちと、研究者が協力して、すべての人が同じように大切にされる場所を作っていきます。



02

実践チームがサポートの現場で見つけた「新しいニーズ（必要なこと）」や「気づき」を研究チームに伝えることで、サポートのよい流れをつくります。



03

今まで、東京大学の学生や教員に、女性は多くありませんでした。性別に関係なく、だれもが過ごしやすい、活躍できるキャンパスをつくります。



04

学んでいる人も働いている人も、大学にいるすべての人が、それぞれの人生の段階に合うようなサポートを得られるようにします。



05

さまざまな困りごとが重なり合う人が差別されたり、他の人が得られているものを得られなかったりしないように、環境をととのえていきます。

